

福井県労働者共済生活協同組合

「第67回通常総代会」および「第8回組合員代表者会議」開催報告

7月30日（水）にユニオンプラザ福井において、「第67回福井県労働者共済生活協同組合通常総代会」「こくみん共済coop中部統括本部福井推進本部 第8回組合員代表者会議」が開催され、すべての議案が承認されました。承認された主な議題は以下のとおりです。

【第67回 福井県労働者共済生活協同組合通常総代会】

2024年度 事業概況

総合（慶弔）共済事業 加入および給付の状況

①加入 31,913件 234,995口 ②給付 1,251件 17,546,500円

【こくみん共済coop中部統括本部福井推進本部 第8回組合員代表者会議】

I. 2024年度 事業報告

①全体状況

全共済合計では206,178件・25,742,990口となり、期首から件数は274件、口数は241,159口の減少となりました。

	期首実績 (2024年5月末)	純増減目標	期末実績 (2025年5月末)	純増減累計	対期首増加率	目標達成率
件数	206,452件	-3,997件	206,178件	-274件	-0.13%	101.84%
口数	25,984,149口	-322,869口	25,742,990口	-241,159口	-0.93%	100.32%

②主要共済状況

「火災共済」は類焼損害保障特約などの特約制度で28,633口増加しましたが、基本契約が約74,000口減少し、合計では45,782口の減少となりました。件数でも401件の減少となり、基本契約の減少傾向が続いています。

「自然災害共済」は51,354口の増加となり、大型タイプの加入の増加傾向が続いています。近年の全国的な自然災害の頻発により、十分な自然災害保障を備えられる加入者が増加しています。

「こくみん共済」は件数で1,085件、口数では218,697口の大幅な減少となりました。全国的に年齢満了や解約・失効による契約減少が続いている状況となっています。

「マイカー共済」は、団体割引制度を訴求した職域団体での掛金見積もり活動により多くの新規加入を獲得できたことから、223件・69,196口の増加となりました。

「自賠責共済」は、自動車分解整備事業者共済代理店および職域において目標を大きく上回る実績獲得となったこともあり、105件・25,669口の増加となりました。

II. 2024年度 給付状況報告

①全体状況

全共済合計では、13,938件・1,910,041,287円のお支払いとなり、対前年度比で151,792,520円の減少となりました。

	2024年度累計	前年度累計	対前年度比
件数	13,938件	14,057件	-119件
金額	1,910,041,287円	2,061,833,807円	-151,792,520円

②特徴的な状況

2024年度においては、前年度発生した「能登半島地震」の県内における契約者の方へのお支払いが一定収束したことなどにより、対前年度比で「火災共済」が11,948,448円、「自然災害共済」で90,566,354円共済金が減少しました。

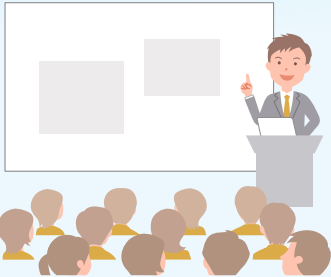
「個人長期共済」は満期共済金などの支払いが減少し、対前年度比で33,655,529円の減少となりました。

一方「終身共済」では、終身生命共済金が増加したことにより、前年度比では30,079,614円の増加となりました。

III. 2025年度 福井推進本部 推進活動計画の実践にむけた3つの視点

- お役立ち発想と共創活動にデジタル技術を取り入れた「**新しいたすけあい**」の視点
- CX向上とCX-Challenge***の視点
- 共済を通じた**社会課題解決**の視点

※「「漏れなく齟齬なく丁寧に、共済金をお届けしたい」という思いを組合員に体験いただくことに繋げる」当会の取り組み



ふくいの生協

福井県生活協同組合連合会

〒910-0842 福井市開発5丁目1603番地（県民生協本部センター内）
TEL0776-52-8815 FAX0776-52-2050 Eメールアドレス kenren@fukuicoop.or.jp

2025年11月7日 No.149

http://www.fukui.coop/kenren/

福井県生協連合会

検索

第28回

Let's clean the beach!

海岸クリーンアップを実施しました



福井県生協連合会では、毎年9月の第1と第2土曜日に、ボランティアを募集して海岸の清掃活動を行っています。今年は28回目となりました。

9月6日（土）は鷹巣海水浴場、9月13日（土）は三国サンセットビーチの清掃を行いました。

小中高校生や大学生、企業や団体、サマーボランティアの募集や当連合会のホームページを見て申し込まれた方、また地元のみなさん、両会場合わせて238名（鷹巣123・三国115）の方にご参加いただきました。

厳しい暑さの中、ご家族やご友人、職場のお仲間と協力し合って、丁寧に熱心に清掃活動に取り組んでくださいました。

今年度も多くの方にご協力いただき、無事海岸クリーンアップの活動を終えることができました。

美しい自然とふるさとを愛する気持ちを次世代に引き継ぎ、ボランティア活動の広がりを通じより良い社会と地域の未来のために貢献していきたいと思います。

ご参加の皆様、ありがとうございました。

「生協ボランティア月間」が始まります。

2025年11月15日から2026年2月15日

福井県内生協ボランティア活動の一環として今年も「生協ボランティア月間」に取り組みます。古切手、書き損じ葉書、外国コイン、ベルマークを集めますので、ご協力ください。集まった収集物は福井県ボランティアセンターなどを通じて、収集ボランティア団体からコレクターなどに売られて換金され、売上金が福祉活動に活用されます。

お問い合わせは、福井県生協連合会 事務局まで。



2024年度の収集物寄贈の様子

この広報は再生紙を使用しています

視察研修に参加しました

視察日 2025年10月6日(月)

視察先 酒田彦兵衛農園(福井県越前市余川町)

福井県協同組合連絡会(JA中央会・経済連、漁連、森連、ワーカーズコープ事業団、生協連)では、毎年各協同組合の施設を視察しながら交流を図っています。今年度は、福井県森林組合連合会の運営で、林業用苗木を生産されている酒田彦兵衛農園を視察させていただきました。

林業用の苗木を生産している農家は全国的にも減少しており、福井県でも2軒を残すのみとなっています。そのうちの1軒が江戸時代から続く酒田彦兵衛農園で、現在のご主人で4代目です。地元である味真野地区に生育している「味真野杉」から種を取り、豪雪に耐え、生育のよい杉の苗木を生産出荷されています。また、無花粉スギや害虫に強い苗の生産など、時代に合わせた様々な取り組みもされています。

現在の主流は専用の容器で育てる「コンテナ苗」で、従来の農地で育てる「裸苗」に比べて、作業負担が軽減され、林業の効率化と再造林率の向上に大きく貢献してい



るそうです。とはいえ、農場で伺ったお話からは、水やりや草取り、花粉飛散検査など、細かい手作業の苦労が想像できました。

日本は国土の約3分の2を森林が占め、森林資源は毎年増え続けていますが、林業の産業としての低迷や、労働力不足と高齢化が、森林管理の放棄による荒廃を招き、成長量の6割以上が利用されずに残っている状態だそうです。

森林の果たす環境への役割や、資源としての可能性が十分に活かされていないことは、憂慮すべき課題だと認識しました。



最後に酒田さんの杉苗の母樹(種をとる杉の木)に案内していただきました。堂々と厳かにたたずむ大木を眺めると、この一本の木から生まれた何万本という苗木が、各地で森林となっていくという、生命の循環に直面している感動を覚えました。



「2030 SDGs」 カードゲーム体験会



福井県生協連合会は、2025年、創立50周年を迎えました。

この大きな節目となる年を記念した企画の第一弾として、「2030SDGs」カードゲーム体験会を開催しました。

会員生協の役職員、組合員(福井大学の学生さん)26名が参加され、SDGsの本質的な目標について理解を深め、2030年までの残された時間をどのように過ごしていけばよいのかを、カードゲームを通して考えよう、という催しです。進行は、「2030 SDGs 公認ファシリテーター」の高井健史さん(福井県民生協職員)です。

ゲームの中で参加者は、それぞれが経済や環境、人権や生きがいなどに関連した目標を持ち、プロジェクト活動を通じて2030年の未来を目指します。

ゲームが進む中、自分の目標を達成することが、時として世界の状況をよくすることにつながることに気づき、世界と自分自身、他者のつながりを感じながら、誰一人取り残さない世界を目指すとする空気が生まれ、生協の仲間らしい、協同で作上げる世界が体现された結果になりました。

また、9月2日～3日に開催された「つながる力で能登を笑顔にアクションinいしかわ」の報告会も同時に行いました。参加した福井県民生協の職員と大学生は、被災地への関心を持ち続けることの大切さと、日常からのつながりを大切にすることが、非常時の連携に欠かせないことを学んだと、熱意をもって発表してくれました。



閉会のまとめ
福井県生協 吉岡専務理事

